



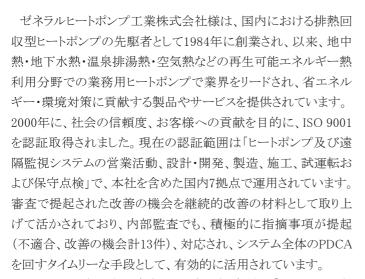
4446

ゼネラルヒートポンプ工業 株式会社 様

(ISO 9001:2015認証登録)

〔取材者〕審查員 美濃 英雄

Hideo Mino



近年では、高効率水冷式ヒートポンプの新機種「ZQSシリーズ」を発売されました。低GWP(地球温暖化係数)に対応した機種で、



同社が目指す再生可能エネルギー熱によるスマートコミュニティ

高効率でCO2 排出量も削減、 冷暖房能力も 同社従来機の 約1.5倍と同社 過去最高の高 能力でより環境 に優しい製品



本社工場・サービスセンター内部(愛知県名古屋市)

とのことです。ゼネラルヒートポンプ工業様は今後も、「技術革新・環境価値・社会貢献」を経営理念に、人と地球に優しい製品開発に取り組まれていかれるとのことで、さらなる発展に期待です。

https://www.zeneral.co.jp/

連載

審査員の心理

第37回 (環境編) 「運用管理(3)」

環境主任審查員 大村 敏夫

Toshio Omura

前回は、多くの組織に共通した環境管理項目として廃棄物の 管理について述べました。廃棄物については、廃掃法(廃棄物 の処理及び清掃に関する法律)による規制に従った管理が主体 となります。その他の環境管理項目としての、エネルギーの使用 に関わる管理でも、省エネ法(エネルギーの使用の合理化に関 する法律)の特定事業者等に該当する組織には、義務規定が 適用されますが、省エネへの取組みの内容については、組織毎 に計画することが必要になります。特定事業者に該当するかは、 エネルギー使用量の基準があり、この基準に満たない事業者に ついても、努力規定(判断基準の遵守、エネルギー消費原単位 の年平均1%以上の削減)が適用されます。義務規定か努力規 定かの違いで、法律の要求には組織毎に強弱がありますが、地 球温暖化の進行、IPCCの報告、COP21のパリ協定(世界の平均気温上昇を、2℃より低く1.5℃に抑える努力をする、という長期目標)を受けて、日本では、2030年カーボン排出量の46%削減、2050年までのゼロカーボン(カーボンニュートラル)達成の目標を表明しています。SDGs(2030年までの17目標)には、「13:気候変動に具体的な対策を」が含まれています。地球温暖化への対応に対する社会からの要請は強まり、可能な限りの省エネや再生可能エネルギーの活用などの取組みが望まれます。

カーボン削減やSDGsなどの達成時期や目標値は政治的に 定められたもので、ゼロカーボンが達成されたとしても、地球温 暖化を止められるという確証はありません。元には戻れない転 換点(ティッピングポイント)を既に超えているとの見解もあります。

「雑宝蔵経」(ぞうほうぞうきょう)というお経の中に「小鳥の一滴」の話があるそうです。山火事を消すために翼につけた滴を運ぶ小鳥が「消すことは出来なくても、消さなければという自分の想いに正直でありたい」と言い、これを知った天の帝は、大雨を降らせて山火事を鎮めたという話とのこと。

個々の組織や個人の取組み効果は小さいかも知れませんが、 地球温暖化への対策は全人類の課題と言えるでしょう。